

## 祭文

本日ここに、第七回北杜市戦没者慰霊祭を挙  
行するにあたり御遺族をはじめ関係各位多数  
の御参加をいただき、心から感謝申し上げます。

あの苛烈を極めた先の大戦において、家族の  
安泰を念じつつ、尊い命を捧げられた1956  
柱の御霊に謹んで哀悼の意を表します。

終戦から早くも七十四年の歳月が流れ、私を  
含め、戦争を知らない「戦後生まれ世代」が北

杜市では約八割を占めています。

しかし、現在私達が享受している平和と繁栄が、祖国の安寧を願い、平和の礎となられた戦没者の方々の犠牲の上に築かれていることを決して忘れるものではありません。

最愛の御家族を失われ、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、長く苦しい日々を、それでも前を向いて懸命に生きてこられた戦没者御遺族の皆様的心痛を拝察いたしますと、痛惜の念に堪えません。

ここに改めて、戦没者の皆様の御冥福をお祈り申し上げるとともに、御遺族の皆様のお労苦に対し、心から敬意を表します。

私たちには、戦争の悲惨さを風化させることなく、平和の尊さを次の世代に語り継ぎ、世界の恒久平和を確立する責務があります。

私も、このふるさとを大事にし、今後も我が国の平和と繁栄のため、全力を尽くしてまいります。

世界に目を向けると、未だテロ行為や紛争は  
なくならず、多数の方々が犠牲になっておりま  
す。

また、国内でも、自然災害が多発し、自然の  
力の甚大さを実感せずにはいられません。

このような中でも、北杜のみなさんが安心し  
た生活が送られるようさらに努めてまいりま  
す。

終りに、英霊の安らかなることを御祈念する  
とともに、戦没者御遺族の皆様は今なお変わる  
ことのない深い苦しみ、悲しみに思いを致し、

併せて、本日御列席の皆様は今後益々の御健勝、御多幸をお祈り申し上げまして、祭文といたします。

令和元年七月十三日

北杜市長 渡辺 英子